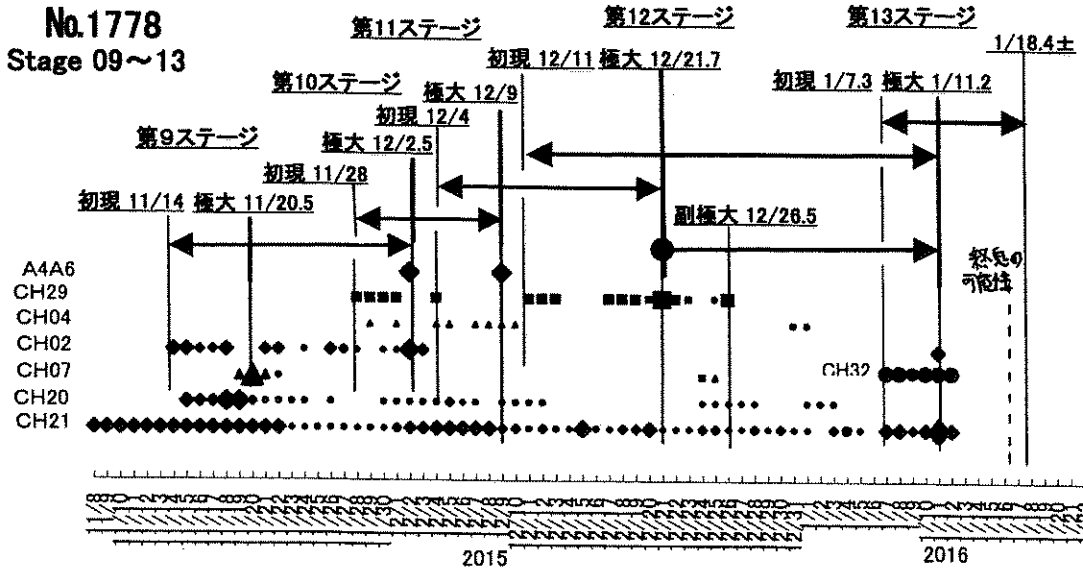
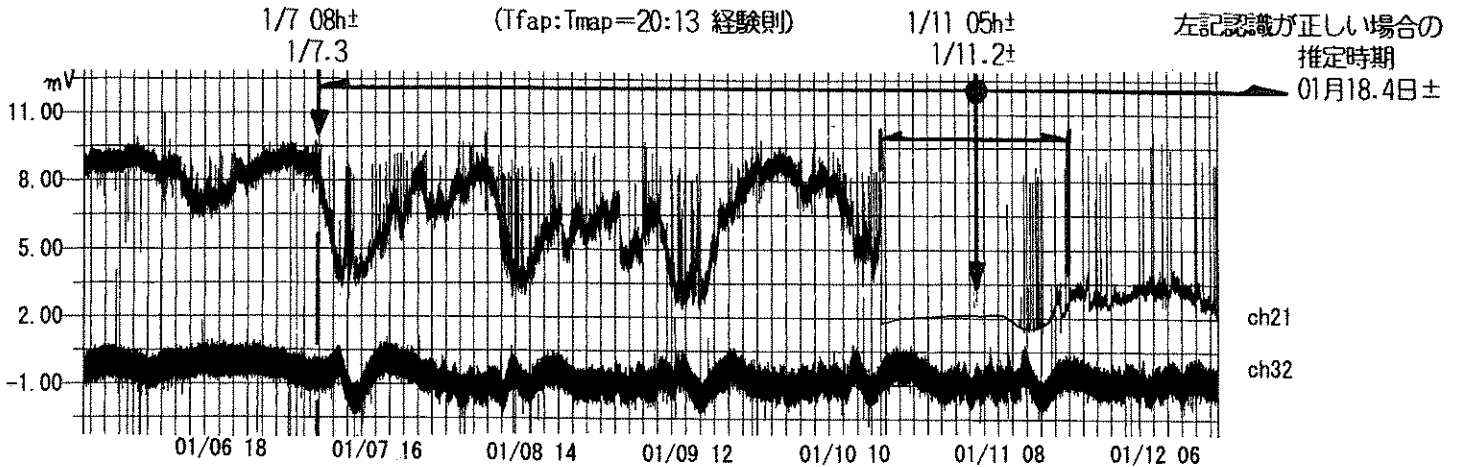


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 1月11日未明 CH21 特異極大観測

第13ステージ前兆 初現=1月7日 極大=1月11日 認識が正しい場合→1月16日午後前兆終息の可能性



No.1778長期継続特殊前兆は、第12ステージが示した1/10or11にCH21系状態特異が出現し、第13ステージの極大が出現したと認識されます。

第12ステージ後半では、12時間も全前兆が静穏と云う状態が観測され、第12ステージが最終ステージである可能性も考えられました。静穏期間は12時間のみで、CH21の特異状態並びにCH32の振動型BF前兆が、01月07日より出現しました。当初は直前特異の可能性も考慮しましたが、前兆は継続出現し、さらに01月10日午後15時過ぎからCH21が系状特異となったことから、第12ステージが最終ステージでは無いことを01月10日に報告致しました。CH21の完全系状態特異は上波形のとおり、01月10日15時~01月11日18時頃まで継続し、中心は01月11日朝05時頃と認識されます。系状態の終息が若干早い11日16時頃の可能性もありますが、中心は11日未明~朝にかけてと認識されます。

現在の認識、第13ステージが、前述の様な出現状態で正しい場合は、上波形に書き込んだとおり、01月18日が表示されることとなります。これが正しい場合は、前兆極大~発生迄の期間→ $T_{map}=7.2$ 日となり、静穏期間→ $T_{pp}=1.9$ 日が計算されます。従って、01月16日午後には静穏期に入ることが示唆され、仮に第13ステージが最終ステージである場合は、01月16日午後には、No.1778関連前兆(現在出現中前兆=CH21とCH23)が全て終息し、静穏基線を記録する可能性が示唆されます。(CH17の系状特異はNo.2710前兆の影響も確実のためNo.1778前兆図から一時削除してあります)

01月16日午後前兆終息が観測されない場合は、第13ステージの初現認識が間違っている可能性が示唆されます。01月06日未明が初現の場合は、01月20日±が表示され、18日深夜まで前兆が継続することとなります。実際の終息を観測し、続報予定。

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 推定領域について

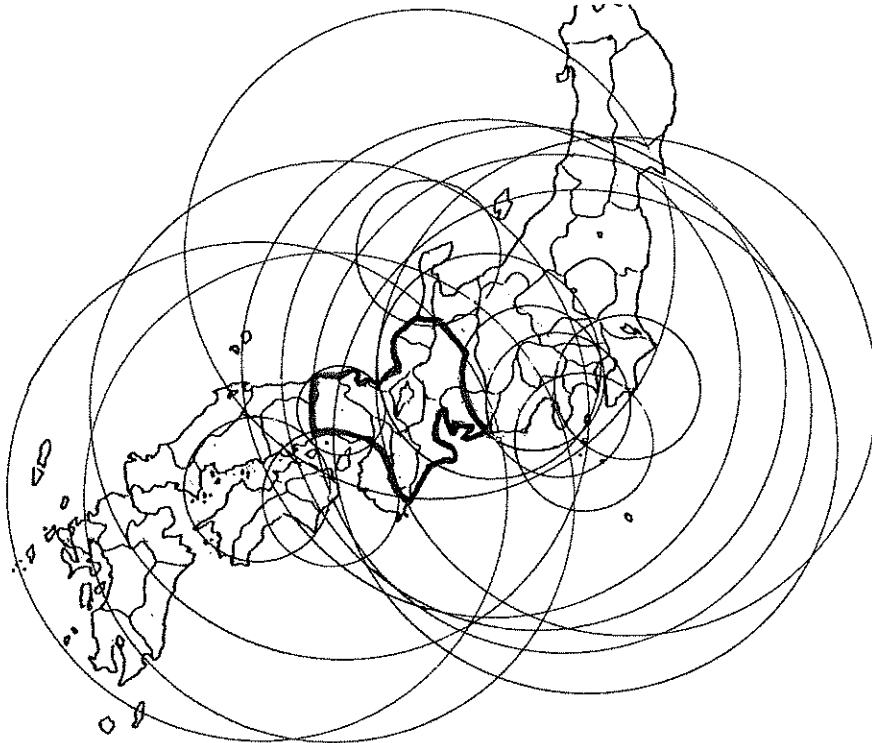


図-1) 大枠推定領域図 (左図太線領域内)

No.1778前兆は最大30台以上の観測装置に前兆出現が観測されましたが、複数観測装置の前兆影響局の中で、確実な伊豆長岡100w、新居浜100w、輪島100w、日和佐100w、身延100w等の影響局を主として各局位置から経験則に基づく出力による前兆出現ドーナツ円を描き、全てが重複する領域を左図に太線領域で示し、大枠推定領域としている。

上記影響局以外の前兆出現推定影響局の中には誤認の可能性も否定できないため、確度の高い大枠推定領域としてある

※影響局誤認の場合は東北領域の可能性(可能性低い)と記してありますが、伊豆局・新居浜局が影響局となる観測装置は伊豆局と函館局の可能性も否定できないため記してある。但し、多くの前兆出現観測装置の影響局からは東北領域は求められないため、可能性は低いと云う見解。



図-2) 推定領域図

上の図-1)太線領域が示される観測装置の影響局以外の前兆出現影響局を加味しますと、左図太線領域内が示される。

上図太線領域の中で西側領域の可能性は消えます。

右記の火山帯近傍の可能性を入れないと左図太線領域内の可能性。



図-3) 可能性が考え易い推定領域

左図太線領域内が考え易い推定領域であるが、火山帯近傍地殻地震と相関がある前兆が観測されているため、ある程度火山帯近傍領域の可能性が示唆される。

東側御岳領域の可能性も若干否定はできないが白山火山帯にある程度近い領域の方が考え易い。火山帯近傍と言っても過去例を見ると、実際に活動していない火山帯近傍であり、今回は火山帯近傍前兆が弱いことから、約

100km程度離れた領域の可能性も有。今まで琵琶湖西側には斜線をつけていなかったが、ある古い資料では若狭湾から山陰地方へ白山火山帯が続いている図もあるため、今回は可能性が考え易い斜線領域を琵琶湖西側迄広げた。

No.1778長期前兆 推定内容

◆推定領域：大枠推定領域＝上図-1)太線領域内
可能性が考え易い領域＝上図-3)斜線領域

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：01月16日前兆終息が観測された場合は⇒01月18日
※実際の前兆終息を観測し、発生日修正の可能性有

◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震、陸域

◇推定発生時刻：午前9時±1(又は午後6時±3)